

博士論文内容の要旨及び博士論文審査結果の要旨

氏名（生年月日） 荒谷友里恵 （ ****年**月**日）
本籍（外国人の場合国籍） *****
学位（専攻分野） 博士（ 健康科学 ）
学位授与番号 甲第 175 号
学位授与日付 令和4年3月21日
学位授与の要件 学位規程第3条第3項該当
論文題目
コロナ禍における小児の手指衛生のための手洗い指導方法の開発

審査委員会

主査 矢野 博己	副査 宮川 健	副査 宮田 富弘
副査 小野寺 昇	副査	副査

博士論文内容の要旨

本博士論文は、コロナ禍における小児の手指衛生のための手洗い指導法の開発を目的にした内容であり、健康科学専攻に相応しい内容の博士論文である。博士論文は、9つの実験・調査から構成され、効果の検証方法としてATP拭き取り検査法と寒天培地を使用したハンドペタンチェックを用いた。小児を児童福祉法第4条を参考に2歳から16歳と定義した。手洗い指導法に関する次のような知見を得た。①動画と紙芝居を用いた日本、カンボジア（現地）、ネパール（現地）の小児への手指衛生指導が効果的であったこと、②遠隔動画を用いた5日間の家庭での手洗いが手指衛生に効果的であったこと、③石鹸の違いよりも手洗い時間の差が手指衛生に効果に影響すること、④簡易的な方法でも手指衛生効果を評価することができること。⑤成人においても動画を用いた遠隔と対面方法による手指衛生指導の効果が確認できたこと。以上の知見に基づき小児の動画を用いた手洗い指導方法を開発し、国内外でのコロナ禍における遠隔での手洗い指導の導入を提言した。

博士論文審査結果の要旨

本博士論文は、コロナ禍における小児の手指衛生のための手洗い指導法を開発を目的にした内容であり、健康科学専攻のカリキュラムポリシーに合致する博士論文である。効果の検証方法として非侵襲的なATP拭き取り検査法と寒天培地を使用したハンドペタンチェックを用いた。本学倫理委員会の承認に基づいた実験プロトコルを実行した。本研究に関わる利益相反関係の企業等はなかった。本博士論文は、9つの実験・調査から科学的な根拠となる知見を引き出している。コロナ禍という社会情勢を勘案した背景と目的を設定した。簡単にできる妥当性のある方法論を選択し、小児でも対応できる実験プロトコルで実行した。統計処理については条件設定に適した有意性の検証に変更するように指示した。現在のコロナ禍における社会情勢と手指衛生の関連性について考察を深めるように指示した。日本だけでなくカンボジアやネパールの現地に赴き、動画や紙芝居を用いた視覚優先の手指衛生指導が効果的であることを明らかにした。5日間の家庭での遠隔指導が同様の効果になることを検証した。開発途上国のような現地でも可能な簡易的な効果検証方法として

片栗粉とイソジンスプレーを用いた方法の妥当性を検証した。コロナ禍における動画を用いた手洗い指導が遠隔でも対面でも有効であるという新規性の高い結論を導いた。こらら一連の効果検証から開発した手洗い動画の指導方法を推奨する提言をまとめた。